

(別紙 1) 認定介護福祉士研修認証

※申請受付番号

(※は記入しないでください)

認定介護福祉士研修認証申請書

申請年月日	令和 1 年 9 月 27 日
申請団体名	一般社団法人岡山県介護福祉士会
申請団体代表者氏名	会長 安達 悦子
申請責任者職名	事務局長
申請責任者氏名	神寶 誠子
団体住所	〒700-0807 岡山市北区南方 2-13-1 きらめきプラザ 7 階
同 Tel・Fax	Tel : (086)-(222)-(3125)
メールアドレス	Fax : (086)-(222)-(6780) E-mail <u>okayama-kaigo@woody.ocn.ne.jp</u>
申請対象の領域	領域名 : 心理・社会的支援の領域
科目名 (単位数)	科目名 : 地域に対するプログラムの企画 (2 単位)
申請する研修名	認定介護福祉士養成研修
研修認証実績	年 認証番号 ()
	年 認証番号 ()
	年 認証番号 ()
その他特記事項	

認証申請科目に対する研修の内容

申請対象の領域	心理・社会的支援の領域	
科目名	地域に対するプログラムの企画	
(1) 提供する研修について		
研修名	認定介護福祉士養成研修	
教育目的	<ul style="list-style-type: none"> ・地域ケアシステムにおける介護の位置や役割を理解させ、連携の視点を形成させる。 ・自分の地域における家族支援、地域連携、地域資源開発などの具体的な取り組みを学習し、地域の課題やニーズに応じた自職場のプログラムを企画させる。 	
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・地域包括ケアシステムの考え方、政策や制度の枠組み、推進・連携の仕組みについて説明できる。 ・自分の地域の地域ケアシステム構築の取り組みの現状と今後の課題を踏まえ、自職場の立ち位置や役割、今後の活動方針について説明できる。 ・地域の課題やニーズに応じた家族支援、地域連携、地域資源開発、介護職への研修支援などのプログラムを企画できる。 	
研修内容（研修プログラム）	含むべき内容	研修プログラム
	<ul style="list-style-type: none"> ○地域包括ケアシステムの考え方と構築にむけた課題 ・地域医療（認知症医療を含む）、地域リハビリテーション、生活支援サービスの開発と多様な地域資源・活動の開発、ニーズに応じた住まいの確保・マッチングと住まい方の支援等 ○自分の地域における地域ケアシステム構築の課題等の把握と等の調査 ・介護保険事業計画の分析と今後の地域の課題やニーズの分析 ・地域における家族支援、地域支援、多機関・多職種連携、居住問題等への取り組みや課題の調査 ○地域の課題やニーズを踏まえた家族支援、地域連携、地域資源開発などのプログラムの企画 ・地域課題の分析からプログラム企画の流れと視点、プログラムの相互評価 	<p>事前課題①（5時間）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 地域包括ケアシステムの政策動向と介護福祉士の役割に関する文献を検索し、内容をまとめる。まとめ方は自由。 CiNii か Google scholar でキーワード「地域包括ケアシステム 政策動向 介護福祉士」で検索し論文を1本抽出する。（検索時より5年以内の論文に限る） 2) 自分の地域における地域ケアシステムの構築の現状を把握し、構築の課題や取り組みを調査する。 3) 自分の施設・事業所のある市町村の介護保険事業計画、地域医療計画を読み、自分の地域で今後発生するニーズ、不足する社会資源、医療－介護連携、認知症や互助等との連携の課題、自職場の役割や事業展開の方向等についてまとめる。 2)3)を4000字程度にまとめる。 <p>事前課題②（5時間）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 地域における家族支援、地域支援、多機関・多職種連携等のプログラムについて、実施機関等を訪問し、取り組みの経過、方法、課題等を分析する。 2) 自地域の課題を分析し、自職場で行うべきプログラムを企画する。 1) 2)を4000字程度にまとめる。 <p>講義①2時間</p> <p>地域包括ケアシステムが政策課題となった背景、医療－介護連携（地域リハ、地域連携パス・退院支援等）、認知症（初期集中支援チーム、認知症ケアパス等）、介護予防・生活支援サービス、居住支援などシステムの構成要素とされるものの内容と課題、そのなかでの介護及び介護福祉士の役割、介護者支援などについて講義する。</p> <p>演習①3時間</p> <p>持参した事例課題①の1) 2) 3)を使用して講義①の内容を参考にしながら検討を行い、地域包括ケアシステムにおける介護福祉士の役割、自施設・事業所の役割について検討する。</p> <p>講義②2時間</p> <p>地域アセスメントとプログラム企画の視点や、事前課題②について、地域における家族支援、地域支援、多機関・他職種連携に関する先行研究から課題</p>

	<p>や良好事例を紹介し、介護及び介護福祉士の役割、介護者支援などについて講義する。 フォーマル及びインフォーマルな資源・活動の把握の重要性について講義する。</p> <p>演習②3時間 持参した事例課題②の1)、2)を使用して講義②の内容を参考にしながら検討を行い、地域包括ケアシステムにおける介護福祉士の家族支援における役割と、家族支援における地域課題や自職場で行うべきプログラムを明示し、明示された内容を相互評価し、質の高いプログラムを作成する。</p> <p>講義③1時間 プログラムの評価の視点、地域住民、多職種、多機関連携の視点や留意点について講義する。</p> <p>演習③4時間 プログラムの相互評価を行い、地域包括ケアシステムにおける介護職（介護福祉士、認定介護福祉士他）の役割を明確にする</p> <p>事後課題①5時間 演習②③で受けた評価に加え、上司・同僚・地域の多機関・多職種や地域住民等からの意見をもらい、「地域の課題やニーズを踏まえた家族支援、地域連携、地域資源開発などのプログラム」をブラッシュアップし、提出。評価を受ける。評価や意見が反映されていること、ブラッシュアップが適切になされていることを評価の基準とする。</p>
研修方法	<p>■集合研修 ■課題学習</p> <p>○集合研修講義と演習を組み合わせで行う ○課題学習は事前、事後課題としてレポート課題を課す。評価は担当講師が行う。</p>
研修時間	30時間（集合研修15時間、課題学習15時間）
修了要件	<p>○全課程の出席を要する。公共交通機関の影響、冠婚葬祭、担当する利用者の急変といったやむを得ない事情による遅刻、早退については合計30分（遅刻、早退それぞれ15分）を上限として認める。やむを得ない事情による30分以内の遅刻・欠席があった場合は、当該科目の講師資料またはテキストによる課題を提出する。 ○事前・事後の課題提出を要す。なお、課題の提出が期限内に行われなかった場合修了を認めない。</p> <p>○修了評価として行う筆記試験（50問程度）において、A～C評価（100点満点中60点以上）であること。D評価（59点以下）の場合は、再試験を行い、A～C評価とならなければならない。なお、再試験は複数回の受験を可能とする。</p>
講師要件（講師の選定基準）	<ul style="list-style-type: none"> ・当該科目における十分な知識・専門性を有し、講師等の教育経験がある者 ・修士課程を修了しているものが望ましい ・地域に対する支援プログラム企画・実施した経験のある有資格者（介護福祉士、主任ケアマネ、社会福祉士、保健師、精神保健福祉士、臨床心理士、作業療法士等）が望ましい
(2)受講者について	
受講対象（受講要件）	<p>単位取得できるのは介護福祉士資格を有するものであること。 ・I類を修了していること。 その他の要件は特になし</p>
修了評価	事前課題①②のレポート30%（100点満点）と事後課題①のレポート20%（100点満点）の評価と筆記試験50%（50問）（100点満点）により行い、事前事後課題、筆記試験共

	<p>に、100点～80点をA評価、79点～70点をB評価、69点から60点をC評価、59点以下をD評価とする。A～C評価（100点満点中60点以上）で修了とする。</p> <p>事前課題①②の評価基準</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自職場が存在する地域の生活課題について、介護福祉としての個別支援の経験を踏まえつつ普遍化され、捉えられていること ・企画したプログラムが地域の生活課題の解決に資するものであること ・企画したプログラムが、自職場の資源を有効に活用するとともに、地域の関係者との協働が行われるものであること ・企画したプログラムの目的、内容、実施方法、効果、実行過程について明確に記述されていること <p>事後課題の評価基準</p> <ul style="list-style-type: none"> ・評価や意見が反映されていること、ブラッシュアップが適切になされていること
(3) 研修の環境条件	
定員（講師の配置基準）	15名（講師1名）演習時と同じ講師が行う。地域福祉を専門とするファシリテーター1名とする。
開催場所（都道府県）	岡山県

(別紙3) 認定介護福祉士研修認証

認証申請する研修の実施体制等 (届出事項)

(1) 研修の実施予定	
実施日	① 2022年(調整中)
	②
	③
開催場所(会場)	① 岡山県総合福祉・ボランティア・NPO会館
	②
	③
(2) 講師	
担当、氏名及び略歴	担当講師(講義・演習・評価): 谷口 敏代 氏
	【職歴】
	<実務経験、教育・研究活動>
	昭和50年4月: 岡山大学医学部附属病院第一外科病棟 就職(看護師)(昭和53年3月まで)
	昭和55年1月: 岡山看護専門学校 専任教員(基礎 看護学・成人看護学) (昭和57年3月まで)
	昭和57年4月: 川崎医科大学附属川崎病院外科病棟 (看護師) 岡山看護専門学校より出向 (昭和59年3月まで)
	昭和59年4月 岡山看護専門学校 専任教員 (平成10年3月まで)
	平成10年4月 岡山県立大学短期大学部健康福祉学科 生活福祉専攻 助教授 (生活支援技術) (平成17年3月まで)
	平成17年4月 岡山県立大学短期大学部健康福祉学科 生活福祉専攻 教授
	平成19年4月 岡山県立大学保健福祉学部保健福祉学科 教 授 (平成30年3月)
平成25年4月 岡山県立大学保健福祉学部保健福祉 学科長・大学院保健福祉学研究科保健 福祉学専攻長 (平成27年3月まで)	
平成30年4月 島根県立大学看護栄養学部看護学科 (現在に至る)	
<関連資格・免許>	
昭和50年5月 看護師(免許番号 274346)	
平成17年4月 臨床心理士(日本臨床心理士資格認定協会 13474)	

	<p style="text-align: center;">【講師経験・社会活動等】</p> <p><講師経験></p> <p>平成 15 年 8 月 介護教員講習会「介護福祉教育方法」講師 (平成 22 年まで)</p> <p>平成 21 年 6 月 介護福祉士養成実習施設実習指導者講習会 講師 (平成 29 年まで)</p> <p>平成 21 年 11 月 主治医意見書研修会・在宅医療推進実地研 修会 講師 「介護福祉の発展～介護福祉 教育の現状と課題～介護と医療の連携強化 に伝えるために」</p> <p>平成 25 年 6 月 実務者研修教員研修会講師 (平成 29 年ま で)</p> <p>平成 26 年 2 月 一般社団法人岡山県介護福祉士会ファース トステップ研修会 講師 「介護職の健康・ストレスと管理」(現在に至 る)</p> <p>平成 26 年 11 月 鹿児島県西之表市老人福祉センター 民生 委員対象講演 「安心と豊かな暮らし防災 意識と避難行動」</p> <p>平成 28 年 5 月 岡山県介護福祉士会倉敷地区研修会講師 「介護職員のメンタルヘルスとその対処」</p> <p>平成 29 年 6 月 平成 29 年度第 1 回岡山県認知症ケア専門 士研修会講師「実践報告・研究発表の方法を 学ぶ」</p> <p>平成 29 年 11 月 日本介護福祉士養成施設協会全国教職員研 修会講師「介護福祉を学ぶ ～大学での養成 の立場から～」</p> <p><委員会活動></p> <p>平成 11 年 12 月 訪問理美容福祉モデル事業実施委員会委員 (岡山県) (平成 12 年 3 月まで)</p> <p>平成 18 年 3 月 介護福祉士国家試験(実技試験)実地試験 委員 (平成 20 年 3 月まで)</p> <p>平成 20 年 7 月 介護福祉士国家試験委員(副委員長) (現 在に至る)</p> <p>平成 21 年 12 月 静岡県立大学資格審査委員会委員 (平成 22 年 3 月 31 日まで)</p> <p>平成 22 年 9 月 鏡野町地域包括ケア会議委員 (平成 27 年 3 月 31 日まで)</p> <p>平成 23 年 9 月 介護福祉士養成課程における技術修得度評 価等の基準策定に関する検討会 (委員長) (平成 24 年 2 月まで)</p>
--	---

	<p>平成 27 年 1 月 文部科学省委託事業「介護福祉士に特価した第三者評価科目に基づく各養成校への評価実施とその成果実証」事業 第三者評価委員（現在に至る）</p> <p>平成 28 年 2 月 介護福祉士国家試験に関する出題基準等検討委員会委員 (平成 28 年 4 月 30 日まで)</p> <p>平成 28 年 1 月 認定介護福祉士認定委員（現在に至る）</p> <p>平成 29 年 4 月 岡山県福祉・介護人材対策推進協議会 幹事（平成 29 年 7 月 5 日 平成 30 年 3 月 28 日 岡山県福祉・介護人材対策推進協議会（実務者会議）座長</p> <p>平成 29 年 7 月 認定介護福祉士研修認証委員会幹事審査委員（平成 30 年 3 月 31 日）</p> <p>平成 29 年 11 月 長寿社会開発センター「介護職員関係養成研修テキスト作成委員会」委員（平成 32 年 3 月 31 日）</p> <p>< 関連担当教科 > 岡山県立大学 岡山県立大学：介護管理 介護原論 介護過程総論 生活支援技術 コミュニケーション技術論 介護総合演習 介護福祉実習 専門ゼミナール 健康と心理 おかやまを学ぶ 岡山県立大学大学院保健福祉学研究科保健福祉学専攻（博士前期課程）： 介護科学特論 I 介護科学特論 I 演習 保健福祉支援科学特別研究 大学院保健福祉学研究科保健福祉学専攻（博士後期課程） 高齢者保健福祉学特別講義 I 保健福祉学特別研究</p> <p>島根県立大学：在宅看護論 島根県立大学大学院看護学研究科：保健福祉学特論 I 保健福祉医療政策論 I</p> <p>【著書等】 著書（平成 26 年以降） 1) 太田貞司監修、太田貞司・諏訪徹・本名靖・上之園佳子・鈴木聖子・谷口敏代共著：地域ケアを拓く介護福祉学シリーズ 生活支援総論、第二部第 3 期 Take10「高齢者となって 家族支援のための取り組み」担当執筆、光生館、平</p>
--	---

成 26 年 4 月.

- 2) 谷口敏代・中村裕子編集：最新介護福祉全書 別巻 4 障害別生活支援技術、第 7 章「発達障害のある人の生活支援技術」執筆、メヂカルフレンド社、平成 27 年 2 月.
- 3) 太田貞司監修、鈴木聖子・谷口敏代・上之園佳子編著：地域ケアを拓く介護福祉学シリーズ 生活支援の実践、編集および第 6 章「多職種連携による生活支援」担当執筆、光生館、平成 27 年 3 月.
- 4) 太田貞司監修、上之園佳子・谷口敏代・鈴木聖子編著：地域ケアを拓く介護福祉学シリーズ 生活支援の基礎理論 I、編集および第 8 章 2「家族支援」担当執筆、光生館、平成 27 年 3 月.
- 5) 太田貞司監修、谷口敏代・上之園佳子・鈴木聖子編著：地域ケアを拓く介護福祉学シリーズ 生活支援の基礎理論 II、編集および第 2 章 6「睡眠のしくみとはたらき」担当執筆、光生館、平成 27 年 3 月.

論文 ((平成 26 年以降 抜粋)

- 1) 谷口敏代・合田衣里・廣川空美他：介護福祉職員における部下や同僚との関係構築に必要な相談対応力構造の検討：インターナショナル, Nursing Care Research 第 13 巻、第 3 号、P1-10、平成 26 年 10 月.
- 2) 松田実樹・谷口敏代・原野かおり他：介護福祉職の生活支援の視点からみる障害児（者）の居宅生活を困難にしている生活課題の分析、介護福祉教育、第 20 巻第 2 号 P35-43、平成 27 年 9 月.
- 3) Taniguchi Toshiyo・Takaki Jiro・Hirokawa Kumi et al：Associations of workplace bullying and harassment with stress reactions: a two-year follow-up study. Industrial health Vol54(2) 131-138, 2016.
- 4) Hirokawa Kumi・Miwa Machiko・Taniguchi Toshiyo et al: Moderating effects of salivary testosterone levels on associations between job demand and psychological stress response in Japanese medical workers. Industrial health Vol54(3) 194-203 2016.
- 5) 谷口敏代・若崎淳子・松田実樹他：がんに罹患している利用者を支える訪問介護員の役割とケア困難感、インターナショナル, Nursing Care Research 第 15 巻 第 2 号 P83-92, 平成 28 年 5 月.
- 6) 谷口敏代・時實 亮・合田衣里他：介護老人福祉施設における組織の公正性と介護福祉士の相談対応力がワーク・エンゲイジメントに及ぼす影響、介護福祉学 第 23 巻 第 1 号 P10-19, 平成 28 年 10 月.
- 7) 時實亮・谷口敏代・高木二郎他：介護福祉士の職場特

	<p>性と個人要因とワーク・エンゲイジメントとの関連、厚生 の指標 Vol.63.No.12 p7-13, 平成 28 年 10 月.</p> <p>8) 米原あき・谷口敏代：認知症対応型共同生活介護（グ ループホーム）における管理者のサービス評価の認識と関 連要因について、日本認知症ケア学会誌、第 15 巻第 4 号 P785-795, 平成 29 年 1 月.</p> <p>9) 時實亮・米原あき・谷口敏代：介護福祉職のワーク・ エンゲイジメントに関する研究-年齢層別および経験年数 層別の比較、介護福祉士 No,22 P24-33, 平成 29 年 8 月.</p> <p>10) 岡本健介・山本まき恵・谷口敏代：障害者支援施設に おける「不適切なケア」の因子構造、岡山県立大学保健福 祉学部紀要 第 24 巻 1 号 P49-57, 平成 29 年 3 月.</p> <p>その他（（平成 26 年以降 抜粋）</p> <p>1) 日本介護福祉学会事典編集委員会 井上千津子、太田貞 司、谷口敏代を含む 193 名で執筆：介護福祉学事典、編 集及び、「介護福祉研究における倫理的配慮」「休息と活 動の意義と目的」部分を担当執筆、ミネルヴァ書房、平 成 26 年 10 月.</p> <p>2) 小林光俊（代表）・谷口敏代・他：介護福祉士に特化した 第三者評価システムの構築、平成 26 年度文部科学省委 託事業、平成 27 年 3 月.</p> <p>3) 小林光俊（代表）・谷口敏代・他：介護福祉士に特化した 第三者評価項目に基づく各養成施設への評価実施とその 成果検証、平成 28 年 3 月.</p>
(3)実施体制	
研修の企画運営の組織 （担当部局・人員）	認定介護福祉士養成研修実行委員会（岡山県介護福祉士会正副 委員長・事務局員）10 名内常勤 2 名
研修の企画運営に関す る諸規程	岡山県介護福祉士会定款に準ずる
研修管理責任者職名	岡山県介護福祉士会研修委員長
研修管理責任者氏名	松島 智枝美
機構問合先部署	岡山県介護福祉士会事務局
機構問合先担当者氏名	藤原 美恵子
機構問合先電話番号 /FAX	TEL 086-222-3125/ FAX 086-222-6780
機構問合先 e-mail アドレ ス	okayama-kaigo@woody.ocn.ne.jp
受講問合先部署	岡山県介護福祉士会事務局
受講問合先担当者氏名	藤原 美恵子
受講問合先電話番号 /FAX	TEL 086-222-3125/ FAX 086-222-6780
受講問合先 e-mail アドレ ス	okayama-kaigo@woody.ocn.ne.jp

(4) 研修履歴の管理体制	
受講者への付与単位部門	岡山県介護福祉士会事務局
受講履歴の管理方法	<ul style="list-style-type: none"> ■紙媒体及びデータによる台帳管理 ■外付けディスクにバックアップデータを保管する ■データ保存期間は10年間、その後は外付けディスクでデータを保管する。 ■個人情報の取り扱いにあたっては、法律を遵守する。
受講履歴の証明	各科目を修了した時点でその科目の修了証明書を発行し、全過程を修了した者には、岡山県介護福祉士会会長名による修了証明書を発行する。
管理責任者氏名	事務局長 神寶 誠子
管理担当者氏名	事務局員 藤原 美恵子

(別添資料)

集合研修における具体的なコマシラバス

申請対象の領域 心理・社会的支援の領域

科目名 地域に対するプログラムの企画

集合研修の総時間数 15 時間

1 日目 (7 時間)

(1 時間は 45 分換算とする)

時間	テーマ	展開内容 (講義ポイントや演習の展開内容)	留意事項等	担当講師 (補助講師)
9:30~10:15 (45分:1時間)	導入 1. 地域包括ケアシステムの考え方と構築に向けた課題	1. 認定介護福祉士として地域で担う役割を具現化することの意味 地域包括ケアシステムに関連する政策や制度を学ぶ意味 2. 地域包括ケアシステムを学ぶ上での基本的知識 地域包括ケアシステム構築をめざす政策動向と介護福祉士の役割	地域包括ケアシステムをめぐる政策は変化しているため、講義時における最新の制度・政策を基に講義する。 受講生は、認定介護福祉士Ⅰ類では地域包括ケアシステムに関する知識を有している。また、事前課題①の1)で、受講生は「地域包括ケアシステム	谷口敏代

			の政策動向と介護福祉士の役割」について学んでいるので、知識の確認をするために発問を中心に講義を進める	
10:15～11:00 (45分:1時間)	2. 地域包括ケアシステム構築の具体的な実践と介護福祉の役割	3. 地域包括ケアシステム構築の具体的な実践と介護福祉の役割 医療・介護総合確保法，地域完結型医療と介護，地域医療計画と介護保険事業計画の関係，地域包括ケアシステム，地域包括ケアシステムと地域共生社会，地域医療，認知症医療，地域リハビリテーション，地域連携パス，退院支援，認知症ケアパス，医療介護連携，地域ケア会議，地域包括支援センター，小規模多機能，介護予防・生活支援サービス，居住支援，サービス付き高齢者住宅，公営住宅等，地域包括ケアシステムの中で認定介護福祉士の力を発揮する上で必ず押さえておかなければならないキーワードを最新の政策動向を踏まえ，受講生の理解を深める。	事前課題①2)3)をもとに受講生の知識の確認をするためにも発問を中心に講義を進める	
11:00～11:10	休憩			
11:10～14:40 (135分:3時間) 12:00～13:00 まで昼休憩	3. 演習	(演習①) 持参した事例課題①の1)2)3)を使用して講義内容を参考にしながら検討を行い、地域包括ケアシステムにおける介護福祉士の役割の役割，自施設・事業所の役	グループワーク及び発表時はファシリテーターに地域福祉の立場から指	谷口敏代 ファシリテーター（山本浩史）

他に 演習の流れを 考え、途中 15 分の休憩を確 保する		割についてグループワーク及び発表を通して学ぶ。	導・コメント	
14:40～14:50	休憩			
14:50～16:20 (90分:2時間)	4. 自地域における地域 包括ケアシステム構築 の課題等の把握 本日のまとめ	4. 地域アセスメントとプログラムの企画の視点 地域アセスメントからプログラム企画の流れとその際 の介護福祉の視点について説明する 地域の社会資源の把握（行政機関，保健・医療・福祉 の機関・団体，インフォーマルな資源・活動として地 縁組織・ボランティアグループ・NPO 法人・当事者団 体，中間支援組織，生活関連産業）の視点について講 義する ニーズの把握方法（事例の収集と分析，行政資料の活 用，アンケート・ヒアリング調査，個別訪問，住民座 談会 他）について講義する 5. 地域における家族支援、地域支援、多機関・他職種 連携に関する先行研究から課題や良好事例を紹介し、 介護及び介護福祉士の役割、介護者支援などについて 講義する。	地域アセスメントシート 配布 モデル地区を紹介し、地 域アセスメントからプロ グラム企画までの事例を 使用する（出雲市・雲南 市の例）	

	事前課題②の 1)2)について説明	本日の講義・演習内容及び認定介護福祉士 I 類で学んだ知識を基に事前課題②の 1)2)を行うこと 本日のまとめと次回の予告		
--	-------------------	--	--	--

2 日目 (8 時間)

時間	テーマ	展開内容 (講義ポイントや演習の展開内容)	留意事項等	担当講師 (補助講師)
9:00~11:30 (135分:3時間) 演習の流れを考え、途中 15 分の休憩を確保する	1. 演習	前回の講義・演習の復習 (演習②) 持参した事例課題②の 1) 2)を使用して、配布した地区アセスメントシート参考にしながら検討を行い、自地域の課題や自職場で行うべきプログラムを明示し、相互評価を通して学ぶ。 前回の講義・演習内容を踏まえ、事前課題②の 1)2)の内容に加筆し自施設及び自地区のアセスメント及びプログラム充実すること	グループワーク及び発表時はファシリテーターに地域福祉の立場から指導 プログラムの作成に当たっては机上の作成ではなく、自職場、地域住民、行政等へのヒアリング等を行うこと。倫理的配慮にも留意すること	谷口敏代 (ファシリテーター) (山本浩史)
11:30~12:15	昼休憩			
12:15~13:00	2. 地域の課題やニーズ	2. プログラムの評価の視点、地域住民、多職種、多機		谷口敏代

(45分:1時間)	を踏まえた家族支援、地域連携、地域資源開発などのプログラムの企画と評価	関連携の視点や留意点について 地域の課題解決に向けた「地域アセスメント、計画、実践、評価、改善」のサイクルから講義する。		
13:00~13:10	休憩			
13:10~14:40 (90分:2時間)	3. 演習	(演習③-1) プログラムの相互評価を行う、地域包括ケアシステムにおける介護職(介護福祉士、認定介護福祉士他)の役割を明確にする 事前課題②の1)2)で作成した自地域の地域アセスメントム、資源、自施設の課題と自職場で行うべきプログラムを発表、相互評価し、実行の可能性と介護福祉士、認定介護福祉士の役割を議論する	グループワーク及び発表時はファシリテーターに地域福祉の立場から指導	谷口敏代 (ファシリテーター)(山本浩史)
14:40~14:50	休憩			
14:50~16:20 (90分:2時間)	3. 演習	演習③-2) 作成したプログラムを実行する上で、地域における家族支援、地域支援、多機関・他職種連携を行う上で、認定介護福祉士の役割を可視化する方法を議論する	グループワーク及び発表時はファシリテーターに地域福祉の立場から指導	谷口敏代 (ファシリテーター)(山本浩史)
16:20~16:30	休憩			
	筆記試験	地域包括ケアシステム、地域支援等に関する知識(50問)		谷口敏代が採点する

主担当講師の教育活動履歴等

1. 氏名

谷口 敏代（たにぐち としよ）

2. 現在の所属

島根県立大学看護栄養学部看護学科

3. 略歴（職歴、講師経験・社会活動等）

3-1. 職歴〔介護・福祉に関する実務経験、教育・研究活動歴等〕

<実務経験、教育・研究活動>

昭和 50 年 4 月：岡山大学医学部附属病院第一外科病棟就職（看護師）（昭和 53 年 3 月まで）

昭和 55 年 1 月：岡山看護専門学校 専任教員（基礎看護学・成人看護学）（昭和 57 年 3 月まで）

昭和 57 年 4 月：川崎医科大学附属川崎病院外科病棟（看護師） 岡山看護専門学校より出向
（昭和 59 年 3 月まで）

昭和 59 年 4 月 岡山看護専門学校 専任教員 （平成 10 年 3 月まで）

平成 10 年 4 月 岡山県立大学短期大学部健康福祉学科生活福祉専攻 助教授 （生活支援技術）
（平成 17 年 3 月まで）

平成 17 年 4 月 岡山県立大学短期大学部健康福祉学科生活福祉専攻 教授

平成 19 年 4 月 岡山県立大学保健福祉学部保健福祉学科 教授 （平成 30 年 3 月）

平成 25 年 4 月 岡山県立大学保健福祉学部保健福祉学科長・大学院保健福祉学研究科保健福祉学
専攻長 （平成 27 年 3 月まで）

平成 30 年 4 月 島根県立大学看護栄養学部看護学科（現在に至る）

<関連資格・免許>

昭和 50 年 5 月 看護師（免許番号 274346）

平成 17 年 4 月 臨床心理士（日本臨床心理士資格認定協会 13474）

平成 31 年 2 月 公認心理師（第 16241 号）

3-2. 講師経験・社会活動等〔介護・福祉に関する講師活動、調査・研究・評価等の活動〕

<講師経験>

平成 15 年 8 月 介護教員講習会「介護福祉教育方法」講師 （平成 22 年まで）

平成 21 年 6 月 介護福祉士養成実習施設実習指導者講習会講師 （平成 29 年まで）

平成 21 年 11 月 主治医意見書研修会・在宅医療推進実地研修会 講師 「介護福祉の発展～介
護福祉教育の現状と課題～介護と医療の連携強化に応えるために」

平成 25 年 6 月 実務者研修教員研修会講師 （平成 29 年まで）

平成 26 年 2 月 一般社団法人岡山県介護福祉士会ファーストステップ研修会 講師

「介護職の健康・ストレスと管理」(現在に至る)

平成 26 年 11 月 鹿児島県西之表市老人福祉センター 民生委員対象講演 「安心と豊かな暮らし防災意識と避難行動」

平成 28 年 5 月 岡山県介護福祉士会倉敷地区研修会講師 「介護職員のメンタルヘルスとその対処」

平成 29 年 6 月 平成 29 年度第 1 回岡山県認知症ケア専門士研修会講師「実践報告・研究発表の方法を学ぶ」

平成 29 年 11 月 日本介護福祉士養成施設協会全国教職員研修会講師「介護福祉を学ぶ ～大学での養成の立場から～」

<委員会活動>

平成 11 年 12 月 訪問理美容福祉モデル事業実施委員会委員 (岡山県) (平成 12 年 3 月まで)

平成 18 年 3 月 介護福祉士国家試験(実技試験)実地試験委員 (平成 20 年 3 月まで)

平成 20 年 7 月 介護福祉士国家試験委員(副委員長) (現在に至る)

平成 21 年 12 月 静岡県立大学資格審査委員会委員 (平成 22 年 3 月 31 日まで)

平成 22 年 9 月 鏡野町地域包括ケア会議委員 (平成 27 年 3 月 31 日まで)

平成 23 年 9 月 介護福祉士養成課程における技術修得度評価等の基準策定に関する検討会(委員長) (平成 24 年 2 月まで)

平成 27 年 1 月 部科学省委託授業「介護福祉士に特価した第三者評価科目に基づく各養成校への評価実施とその成果実証」事業 第三者評価委員 (現在に至る)

平成 28 年 2 月 介護福祉士国家試験に関する出題基準等検討委員会委員
(平成 28 年 4 月 30 日まで)

平成 28 年 1 月 認定介護福祉士認定委員 (現在に至る)

平成 29 年 4 月 岡山県福祉・介護人材対策推進協議会 幹事 (平成 29 年 7 月 5 日 平成 30 年 3 月 28 日 岡山県福祉・介護人材対策推進協議会(実務者会議)座長)

平成 29 年 7 月 認定介護福祉士研修認証委員会幹事審査委員(平成 30 年 3 月 31 日)

平成 29 年 11 月 長寿社会開発センター「介護職員関係養成研修テキスト作成委員会」委員(平成 32 年 3 月 31 日)

<関連担当教科>

岡山県立大学

岡山県立大学: 介護管理 介護原論 介護過程総論 生活支援技術 コミュニケーション技術論
介護総合演習 介護福祉実習 専門ゼミナール
健康と心理 おかやまを学ぶ

岡山県立大学大学院保健福祉学研究科保健福祉学専攻(博士前期課程):

介護科学特論 I 介護科学特論 I 演習 保健福祉支援科学特別研究

大学院保健福祉学研究科保健福祉学専攻(博士後期課程)

高齢者保健福祉学特別講義 I 保健福祉学特別研究

島根県立大学: 在宅看護概論 在宅看護ケアマネジメント論 在宅看護技術 社会福祉論

島根県立大学大学院看護学研究科: 保健福祉学特論 I 保健福祉医療政策論 I

4. 著書等

著書（平成 26 年以降）

- 1) 太田貞司監修、太田貞司・諏訪徹・本名靖・上之園佳子・鈴木聖子・谷口敏代共著：地域ケアを拓く介護福祉学シリーズ 生活支援総論、第二部第 3 期 Take10「高齢者となって 家族支援のための取り組み」担当執筆、光生館、平成 26 年 4 月。
- 2) 谷口敏代・中村裕子編集：最新介護福祉全書 別巻 4 障害別生活支援技術、第 7 章「発達障害のある人の生活支援技術」執筆、メヂカルフレンド社、平成 27 年 2 月。
- 3) 太田貞司監修、鈴木聖子・谷口敏代・上之園佳子編著：地域ケアを拓く介護福祉学シリーズ 生活支援の実践、編集および第 6 章「多職種連携による生活支援」担当執筆、光生館、平成 27 年 3 月。
- 4) 太田貞司監修、上之園佳子・谷口敏代・鈴木聖子編著：地域ケアを拓く介護福祉学シリーズ 生活支援の基礎理論 I、編集および第 8 章 2「家族支援」担当執筆、光生館、平成 27 年 3 月。
- 5) 太田貞司監修、谷口敏代・上之園佳子・鈴木聖子編著：地域ケアを拓く介護福祉学シリーズ 生活支援の基礎理論 II、編集および第 2 章 6「睡眠のしくみとはたらき」担当執筆、光生館、平成 27 年 3 月。

論文（平成 26 年以降 抜粋）

- 1) 谷口敏代・合田衣里・廣川空美他：介護福祉職員における部下や同僚との関係構築に必要な相談対応力構造の検討：インターナショナル、Nursing Care Research 第 13 巻、第 3 号、P1-10、平成 26 年 10 月。
- 2) 松田実樹・谷口敏代・原野かおり他：介護福祉職の生活支援の視点からみる障害児（者）の居宅生活を困難にしている生活課題の分析、介護福祉教育、第 20 巻第 2 号 P35-43、平成 27 年 9 月。
- 3) Taniguchi Toshiyo・ Takaki Jiro・ Hirokawa Kumi et al : Associations of workplace bullying and harassment with stress reactions: a two-year follow-up study. Industrial health Vol54(2) 131-138 , 2016.
- 4) Hirokawa Kumi・ Miwa Machiko・ Taniguchi Toshiyo et al: Moderating effects of salivary testosterone levels on associations between job demand and psychological stress response in Japanese medical workers. Industrial health Vol54(3) 194-203 2016.
- 5) 谷口敏代・若崎淳子・松田実樹他：がん罹患している利用者を支える訪問介護員の役割とケア困難感、インターナショナル、Nursing Care Research 第 15 巻 第 2 号 P83-92、平成 28 年 5 月。
- 6) 谷口敏代・時實 亮・合田衣里他：介護老人福祉施設における組織の公正性と介護福祉士の相談対応力がワーク・エンゲイジメントに及ぼす影響、介護福祉学 第 23 巻 第 1 号 P10-19、平成 28 年 10 月。
- 7) 時實亮・谷口敏代・高木二郎他：介護福祉士の職場特性と個人要因とワーク・エンゲイジメントとの関連、厚生学の指標 Vol.63.No.12 p7-13、平成 28 年 10 月。
- 8) 米原あき・谷口敏代：認知症対応型共同生活介護（グループホーム）における管理者のサービス評価の認識と関連要因について、日本認知症ケア学会誌、第 15 巻第 4 号 P785-795、平成 29 年 1 月。
- 9) 時實亮・米原あき・谷口敏代：介護福祉職のワーク・エンゲイジメントに関する研究-年齢層別および経験年数層別の比較、介護福祉士 No,22 P24-33、平成 29 年 8 月。
- 10) 岡本健介・山本まき恵・谷口敏代：障害者支援施設における「不適切なケア」の因子構造、岡

山県立大学保健福祉学部紀要 第24巻1号 P49-57, 平成29年3月.

その他 ((平成26年以降 抜粋))

- 1) 日本介護福祉学会事典編集委員会 井上千津子、太田貞司、谷口敏代を含む193名で執筆：
介護福祉学事典、編集及び、「介護福祉研究における倫理的配慮」「休息と活動の意義と目的」
部分を担当執筆、ミネルヴァ書房、平成26年10月.
- 2) 小林光俊（代表）・谷口敏代・他：介護福祉士に特化した第三者評価システムの構築、平成26
年度文部科学省委託事業、平成27年3月.
- 3) 小林光俊（代表）・谷口敏代・他：介護福祉士に特化した第三者評価項目に基づく各養成施設
への評価実施とその成果検証、平成28年3月.

担当講師の教育活動履歴等

1. 氏名 山本浩史（やまもと ひろふみ）

2. 現在の所属 新見公立大学健康科学部地域福祉学科

3. 略歴（職歴、講師経験・社会活動等）

3-1. 職歴〔介護・福祉に関する実務経験、教育・研究活動歴等〕

1993年4月～2004年3月・（社福）恩賜財団済生会支部岡山県済生会岡山済生会総合病院へ入職（医事課等）、岡山済生会ライフケアセンター開設準備室へ出向、岡山済生会ライフケアセンター総括事務部、兼介護老人保健施設なでしこ苑（総務主任、相談員）

2004年4月～2012年8月・川崎医療福祉大学医療福祉学部医療福祉学科（講師、准教授）

2012年9月～2017年3月・岡山県立大学保健福祉学部保健福祉学科（准教授）

2017年4月～2019年3月・新見公立短期大学地域福祉学科（教授）

2019年4月～現在に至る・新見公立大学健康科学部地域福祉学科（教授）

3-2. 講師経験・社会活動等〔介護・福祉に関する講師活動、調査・研究・評価等の活動〕

【講師活動等】

3-1で記した上記職歴（教職）での教育に加え、

- ・岡山県社会福祉協議会「コミュニティソーシャルワーク研修」講師（2018年及び2019年度）
- ・岡山県障害者スポーツ協会「岡山県障がい者スポーツ指導員（初級）養成講習・ボランティア論」講師、2008年度～現在 など

【社会活動等】

- ・岡山県社会福祉協議会運営適正委員会苦情解決合議体（副委員長）2014年～現在に至る
- ・岡山県第三者評価推進委員会（副会長）2014年～現在に至る
- ・岡山県社会福祉協議会経営企画委員会（委員長）2015年～現在に至る
- ・真庭市地域福祉計画策定委員会（委員長）2017年～現在に至る
- ・新見市まちづくり審議会委員 2018年～現在に至る
- ・新見市地域福祉計画策定委員及び新見市社会福祉協議会地域福祉活動計画策定委員（副委員長）2019年～現在に至る など

4. 著書等

- ・共著『ボランティアのすすめ』ミネルヴァ書房、2005年
- ・共著『福祉教育のすすめ』ミネルヴァ書房、2006年
- ・共著『介護における社会福祉援助技術』日本医療企画、2007年
- ・共著『慈愛と福祉 岡山の先駆者たち1』山陽放送学術文化財団、2019年

【論文等】

単著「高齢者福祉における医療制度と介護保険制度-社会的入院と介護保険施設を中心に-」川崎医療福祉学会『高齢者医療福祉』（vol20 Suppl.1），13-28、2015年

単著「中国地方のある中山間地域に暮らす高齢者の生活を継続させている要因について」日本社会福祉学会中国・四国地域ブロック編『中国・四国発！共生社会づくりの課題と展望』，115-130，2018年 など